JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	外国人の保護者のための学校配布プリントの研究
Author(s)	本田，弘之
Citation	科学研究費助成事業研究成果報告書：1-4
Issue Date	2019-06-03
Type	Research Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16024
Rights	
Description	挑戦的萌芽研究，研究期間：2016～2018，課題番号：16K13241，研究者番号：70286433，研究分野： 日本語教育学

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１３３０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１３２４１

研究課題名（和文）外国人の保護者のための学校配布プリントの研究

研究課題名（英文）Study of documents distributed at school for foreign parents

研究代表者
本田　弘之（HONDA, Hiroyuki）

北陸先端科学技術大学院大学・グローバルコミュニケーションセンター・教授

研究者番号：７０２８６４３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：日本の小中学校では、保護者あてに各種のプリントが配布される。それが学校と保護者の重要なコミュニケーション手段となっている。しかし、外国人の保護者には、これらのプリントを読むことができないことがある。日本語の読解力に問題がある場合もあれば、日本の学校文化を理解していないために読むことができても、内容が理解できない場合も多い。
本研究では、各地の小中学校で配布されるプリントを収集し、コーパスを作成した。そして、そのコーパスを分析し、学校配布プリントの日本語表現の特徴を分析した。さらに、その分析および文例にもとづいた教材を作成する。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年、日本の公立小中学校に通う外国人の児童生徒が増加している。すでに、各自治体で日本語がわからない児童生徒のために日本語クラスが設置されるなど、児童生徒を対象とした対応策がとられはじめている。
しかし、その児童生徒の保護者の多くが、こどもが学校から持ち帰る連絡プリントを読解することができず、困難を感じている。そこで、まず実際に学校で配布されているプリントを収集して、コーパスを作成し、それを分析して学校配布プリントの内容を明らかにすることが必要である。
さらに、外国人の保護者の多くが学ぶ地域の日本語支援教室で教材として使用するための教材を作成することには、大きな社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In Japanese elementary and junior high schools, various documents are distributed to parents. That is an important means of communication between the school and the parents. However, foreign parents may not be able to read these documents. There may be problems with Japanese reading comprehension. Also, although foreign parents can read Japanese, they often can not understand the contents because they do not understand Japanese school culture.
In this study, we collected documents distributed at elementary and junior high schools in various places, and created a corpus. Then, the corpus was analyzed, and the features of Japanese expression of school distribution print were analyzed. Then, create a teaching material based on the analysis and example sentences.

研究分野：日本語教育学

キーワード：定住外国人　外国人児童生徒　学校配布プリント　地域日本語教育

１．研究開始当初の背景

現在、「生活者としての外国人への日本語支援事業」において、最も重要な役割を果たしているボランティア日本語教室では、どの教室でも、こどもを日本の学校に通わせている「保護者」が学んでいる比率が非常に高い。その外国人の保護者の支援には「文字の理解力・読解力」の養成が、会話以上に重要である。なぜなら日本の学校教育においては「プリントの配布」が、学校と保護者との主要なコミュニケーション手段となっているからである。

しかし、従来、地域の日本語教室では、会話の指導・支援が中心とされてきており「文字を読む」ための学習教材があまりない。さらに、学校プリントに現れる日本の「学校文化」を理解してもらうための教材がほとんどない。そこで、そのような教材の作成が喫緊の課題となっている。

２．研究の目的

本研究は「外国人の保護者」を支援するために、毎日こどもが持ち帰る「学校配布プリント」を収集してコーパスを作成し、それを分析して、学校プリントの日本語の実態を明らかにする。そして、それに基づいて保護者と地域のボランティアのために「学校プリントを読むための教材」を作成することを目的とする。

日本語非母語話者の保護者は、学校配布プリントを読めなかったり、日本の学校文化を知らないため内容が理解できないことが多い。そのため、悩み、苦しんでいる保護者は少なくない。また、地域の日本語ボランティアも、教材などの手がかりがなく、支援の方法に苦慮しているケースが数多い。本研究は、その状況を打開するために行われる。

３．研究の方法

研究は、次の手順で行った。その詳細は「4．研究成果」に述べるとおりである。

（1）児童生徒が家庭に持ち帰るプリントの収集
（2）保護者が「読まなければならない」プリントの抽出とその選定ストラテジーの検討
（3）コーパスの作成
（4）コーパスの分析、データベースの作成
以上（1）～（4）は、年度ごとに行った。学校行事が年度単位で繰り返されるためである。
（5）教材作成（準備中）

４．研究成果

（1）児童生徒が家庭に持ち帰るプリントの収集

いくつかの地域のボランティア団体および個人に依頼して、プリントの収集方法を試行した結果、学校プリントは年間を通じて一人の児童生徒から、継続的に収集することが重要であることがわかった。これは、日本の学校は、年度単位で学校行事を開催し、記事がその内容を中心に書かれることと、健康・安全管理などのプリントも季節を反映して内容が書かれることによる。これに対し、ボランティア団体や学校にプリント収集を依頼すると、集まる時期にムラができてしまうことや、重複したプリントが集まってしまい精度のよい資料が得られないことが明らかになった。

以上のことから、特定の児童生徒の保護者数名に依頼し、こどもが年間を通じて家庭に持ち帰るプリントを収集した。

（2）保護者が「絶対に読まなければならない」プリントの検討・抽出

プリントには、絶対に読まなければならないプリントと重要性の高くないプリントが混在している。自身が日本の学校に通っていた経験がある日本人の保護者は、その中から一瞬にして「すぐに読まなければならないプリント」「時間があるときに読めばよいプリント」「捨ててもよいプリント」を適切に判別している。しかし、このようなストラテジーを持ち合わせない外国人の保護者はすべてのプリントに目を通すことになってしまう。そこで、重要度という観点からプリントを分類し、「読まなければならないプリント」を多数のプリントの中から適切に判別するためのストラテジーを言語化して、習得可能なものにした。

（3）コーパスの作成

スキャナと OCR によりテキストデータ化し、そのテキストデータからコーパスを作成した。当初、学校プリントコーパスそのものを最終年度に公開することを予定していた。そのために、コーパス作成にあたって資料を採集した学校や個人情報にあたりそうな情報はすべて削除してコーパスを作成した。しかし、文それ自体の著作権の有無などが明確ではない（学校プリントの著作権についての判例がない）ために著作権法をクリアするかどうか不明である、という問題があることがわかった。そのため、慎重を期して、今のところ一般への公開を見合わせている。

（4）コーパスの分析、データベースの作成

完成したコーパスから、初級レベルの日本語教育で学習する 92 文型について、文を抽出し、使用頻度を割りだした。さらに BCCWJ にもとづいて、これらの文型の使用頻度をまとめた中俣尚己『文法コロケーションハンドブック』(2014・くろしお出版）と比較し、共起する動詞などの差異、つまり日本語教育で使われる文の内容、および BCCWJ に出現した文の内容と学校プリントに使われる文の内容の違いをまとめた。

コーパスの分析は現在も進行中である。語彙や文型の出現頻度、共起関係を分析し、学校プリントに特有の語彙や文型の抽出をして、プリントを読むために学習・習得しなければならない事項を明らかにしたい。また、プリントの内容分析もあわせて実施し、プリントの記述に含まれる隠れたカリキュラム（hidden curriculum）や学校文化について検討する。

（5）教材作成の構想と準備

研究調査の過程を通じ、小学校・中学校の現場で外国人の保護者が増える中、プリントの配布について悩む事例が増えているという声を何度も聞いた。学校プリントを読み解くための教材が求められていると考えている。そこで、教材化により、広く研究成果を公開しようと準備を進めており、2019 年 4 月より、ある小学校の外国人児童のための日本語クラスの担当者にヒアリングを開始した。すでに最終年度をすぎてはいるが、できるだけ早い時期に「学校プリント教材」を完成して公刊する予定である。

５．主な発表論文等

〔学会発表〕（計 4 件）

1　菊池哲佳,新谷恵理子,柳田直美, 本田弘之、「やさしい日本語」に対する自治体の取り組み現状と課題、シンポジウム〈やさしい日本語〉と多文化共生、2018 年

2　本田弘之、武山良三、岩田一成「公共サインと言語政策」『公共サインの言語政策　言語計画はどこで行われているのか』、言語政策学会 200 回記念大会、2018 年

3　本田弘之、外国人の保護者の前にある三つの障壁―学校配布プリントの分析からの考察―」『日本に暮らす外国人の保護者の支援と日本の学校文化をめぐって－学校配布プリントの調査と聞き取りの分析から見えてきたもの―』、Bali ICJLE2016、2016 年

4　李暁燕、「学校カルチャー語彙」の理解度分析―生活者としての外国人保護者を支援する教材作成に向けて―、Bali ICJLE2016、2016 年

〔図書〕（計 2 件）

1　本田弘之、岩田一成、倉林秀男、街の公共サインを点検する、大修館書店、2017 年　204（総ページ数）

2　森篤嗣、子どもを持つ外国人のための語彙シラバス、森篤嗣（編）『ニーズを踏まえた語彙シラバス』、くろしお出版、2016 年、179-196p

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：林　良子
ローマ字氏名：HAYASHI　Ryoko
所属研究機関名：神戸大学
部局名：国際文化学研究科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：20347785

研究分担者氏名：森　篤嗣
ローマ字氏名：MORI Atsushi
所属研究機関名：京都外国語大学
部局名：外国語学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：30407209

研究分担者氏名：李　暁燕
ローマ字氏名：LI　Xiaoyan
所属研究機関名：九州大学
部局名：共創学部
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：70726322

研究分担者氏名：義永　美央子
ローマ字氏名：YOSHINAGA Mioko
所属研究機関名：大阪大学
部局名：国際教育交流センター
職名：教授
研究者番号（8 桁）：80324838

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。